



活動プログラム	No.29 公式雪合戦（屋外）		
期待される効果	 		
プログラム概要	冬の遊びである雪合戦を、チームスポーツとして競技化された公式雪合戦。美方高原では冬の雪原でなくても1年中室内で楽しめるよう装備を揃えています。グループで作戦を立てそれを実践していく中で、主体性や協調性が育めます。		
対象	小学生以上	人数	40人
時期	積雪期（1月～3月上旬）	場所	グラウンド等
金額	無料	スタッフ数	3人以上

準備物	団体ごと	ホイッスル、救急セット
	服装 個人装備	スキーウェア等の冬の外遊びが出来る服装や装備、水筒
美方高原でレンタル可能な物		ホイッスル、ストップウォッチ、雪合戦専用ヘルメット、雪玉製造機、シェルター（隠れる壁）、ゼッケン、フラッグ

活動のタイムスケジュール（例）

時間	運営	安全上のポイント
前日 （研修室等）	公式雪合戦ルール説明・質疑応答 チーム内作戦会議	
実施当日 9:00	集合→備品受取・施設出発 準備体操 コート作り・雪玉作り 模擬試合でルール確認	体調確認 服装の確認 雪玉製造機は重い器具のため、必ず指導者がついて使用すること
10:00	試合開始	人対人の接触事故に注意
随時	（作戦会議・休憩）	水分補給
11:30	試合終了→ふりかえり	
11:50	移動→備品返却 解散	体調確認

補足ポイント

- 参加者は事前にルールを理解しておくこと当日スムーズに実施出来ます。
- 雪質、気温により雪玉が製造できない場合は、公式室内球（お手玉）を使用することもできます。
- 備品は大型ソリ等を使用して運搬してください。
- シェルターはソリ等を代用することもできます。
- 対象年齢によってはルールを簡素化することで活動への理解が深まります。
- 雪質によっては、雪玉ではなく室内球を使用する場合があります。
- クラス数、チーム数によっては1日プログラムで余裕をもって活動することをお勧めします。
- 運営方法は、ねらいや時間枠によってトーナメント戦や総当たり戦を選択して実施できます。

活動 プログラム	No.29	公式雪合戦（屋外）
-------------	-------	-----------

予期されるリスク	リスクに対する対応
装備・備品の不適切使用	ヘルメットのシールドで目を守れない装着など予想されるリスクの説明をし、注意喚起を行う。また、不適切な使用があった場合、活動を中断し改善を行う。
低体温症	服装の確認を行う。また、気温が低い場合は、温かい物を準備し休憩をこまめにし、体の冷えを防ぐ。
脱水症状	十分な水分を準備するよう伝える。また、気温が高い場合は、休憩をこまめにし体調確認を行う。
急激な動きによるケガ等	準備体操及び整理体操を行う。また、人対人の衝突が起こりうることを説明し、注意喚起を行う。
天候不良	当日の天候や予測を確認し、著しく悪化する場合はプログラムの時間変更、もしくは室内への切替を行う。
その他のケガ、体調不良	救急バックを携帯し、応急手当の準備をする。事前の体調調査、当日の確認を行い、バックアップ体制を整えておく。

事前点検・準備事項
実施フィールドは安全に実施できる状態か。
天候の情報を確認して、適切な対応をしたか。
参加者の年齢、人数、スタッフ数、体調面などの情報は入っているか。
運営方法やタイムスケジュールは明確で共有されているか。
施設準備物は使用可能な状態か。または数は揃っているか。
参加者もしくは団体への持ち物の伝達は行ったか。

活動時のインストラクション（必須事項）
<p>ルールを理解すること。</p> <p>ヘルメットは深くかぶりアゴひもをしっかりとしめること。</p> <p>予想される気温・天候に応じて、低体温注意や高温注意喚起を行うこと。</p> <p>試合時に、人と人との交差衝突の可能性があるため、周りをしっかりみながらプレーする。</p> <p>積雪量が少なくブッシュまた、地面が露出しそうな場合は滑りこみなどは禁止する。</p> <p>活動前に必ず準備体操を行う。</p>